

# 柘植地域 まちづくりだより 第271号

発行

柘植地域まちづくり協議会事務局  
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地  
(柘植地区市民センター内)

〒五一九一四〇二  
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三



発行日

2021(令和3)年7月30日(金)

柘植地域俳句コーナー  
工場の  
煙突に傘  
桐の花  
清水 節子

## 令和3年度 いがまち3地域 合同区長集會 開催

いがまち3地域(柘植・西柘植・壬生野)の全区長へ柘植12名・西柘植9名・壬生野7名計28名)及び、3まち協・役員等が一堂に会し、地域が抱える現下の課題・問題点に関して行政から直近の状況説明が有りました。

当「3地域・合同区長集會」は毎年一回開催されており本年度8回目、6月25日午後7時から「ふるさと会館・小ホール」に於いて以下の懸案課題にて行政説明が行われました。

### 1、伊賀支所の在り方について

伊賀市 総務部 総務課・奥田課長より、支所の役割と必要性を改めて検証、時間の経過と共に支所の位置付けが変わって来た背景有り、市は支所廃止の方向で検討中の経過説明が有りました。

『支所』見直しの方針(案)骨子は新市

建設計画の期限である2022(令和4)年3月末を以って、6つの支所を全て廃止する。旧市町村の区域に拘らない新しい地域を設定する。阿山・伊賀の区域を北部/島ヶ原・大山田・上野を中部/青山と上野の一部を南部、と想定。広い市域を補う為の行政機関(窓口)として、北部と南部の2カ所に「地域振興センター」(仮称)を設置するというもの。

市は行政組織のスリム化を図りつつ市民の不安を解消する方法を協議・検討中としているが、例えば此処、阿山・伊賀の北部地域振興センター(仮称)為るものが具象化(場所・建物等)が明示されておらず、実際にどの様に機能するのか・・・全体像が不透明な現状に鑑みれば、来年度からの移行計画は極めて厳しく、無理が有ると云わざるを得ません。

### 2、公民館及び図書室について

教育委員会 生涯学習課・中岡課長より「生涯学習推進体制の再編について」案内

が有りました。具体的には現状の上野・いがまち・阿山・島ヶ原・大山田・青山の「地区公民館」を廃止し公民館は現在の「中央公民館」(伊賀市生涯学習センター)ハイトピア伊賀(5F)に集約。



各地区に於ける活動拠点は各地域の「地区市民センター」に移行して

「社会教育支援員」を1名づつ各市民センターに配置する。中央公民館で或る「伊賀市生涯学習センター」に於いては、「社会教育指導員」を配置し、全市的な生涯学習推進拠点としての役割を担う。

各地区市民センターに1名づつ配置される「社会教育支援員」の役割として、住民自治協議会が実施している事業や教室など生涯学習事業支援/地域ニーズに応じた新たな生涯学習事業の準備支援/社会教育指導員の助言・指導を受け、生涯学習事業支援やコーディネート/他の住民自治協議会等と連携した共催事業の実施支援。として

います。

依って、各「地区市民センター」の管理職員は現在の2名から、当社会教育支援員1名を加えた3人体制に、令和4年4月から変更される予定です。

### 3、市民センターの指定管理について

伊賀市企画振興部 地域づくり推進課・古川課長より、地区市民センターの方向性について左記の説明がありました。

現在の「地区市民センター」は地域を取り巻く様々な課題に対し、住民自身が、或いは地域が主体的に自らの責任のもと、当事者意識を持ってまちづくりを進めていく事が市の目指す住民自治の形となっており、住民自らが各地域での自治が行える場であ

る「自治センター」として、市側が提供したのが、現在の「地区市民センター」の設立経緯です。

市ではそれぞれの住民自治協議会が地区市民センターの指定管理者として主体的に管理運営する事に依り、地域ニーズに沿った住民自治活動を展開できるものと考えています。

然し乍がら「地区市民センター」を住民自治協議会が指定管理者として自らで管理出来るか否かは、地域の実情や課題がそれぞれ異なり長い年月を要する地域もあるものと考えられます。拠って、地区市民センターの管理手法については令和4年度から「選択制」とし、住民自治協議会が「指定管理」制度を取り入れるか、若しくは従来通り「市の直轄」とするか、選択出来る制度に改正します。

因みに、三重県には、14市・15町、全・29市町在り、指定管理制度を取り入れている自治体は、亀山市と名張市の2市のみに尽き、種々様々懸案課題も多いものと推測されます。

### 4、防災行政無線について

伊賀市総合危機課・前川主任より、伊賀市防災情報システムの方向性(案)の案内が有りました。現在、防災行政無線は屋外スピーカー161局と戸別受信機1200

0台で構成されているが、更新案として戸別受信機を廃止し、屋外スピーカーを57局に集約。且つ「メール配信」に換わり、「発令支援システム」を使い、「情報一括配信システム」に依り、緊急速報メールや防災アプリを介して「防災メール」等を、スマホで見る事が出来る様にし、「ホームページ」の閲覧も出来るシステムに移行する予定です。

以上の4事案に関して、伊賀市の担当4課長から現況説明が有った次第ですが、取り分け「支所廃止」計画に関しては、当該地域の住民自治協議会会長連名にて「支所廃止案の撤回について」と題し「請願書」が出されており、市議会にて採択済

請願要旨は、6支所の廃止に係る計画案の撤回/併せて6支所の権能・機能の充実/以ってひとが輝き地域が輝く「まち」の実現を確実にされたい。とし、支所は高齢化が進む中にあるは身近な行政事務の拠点として市民サービスに不可欠であり、大規模災害が続発する昨今にあっては防災対応の拠点として住民の安心安全に資している。又支所周辺を中核とした文化拠点や経済拠点への寄与も大きいものがある。とし、更には、各住民自治協議会にあっては、マンパワーやスキル等、未だ自治基本条例の要請に応える体制と機能を有するに至っており、各支所の指導や支援が必要不可



欠な状況にある事から、支所廃止案の撤回を請願します。と云うのが其の要旨です。

其の後、支所の在り方が更に見直され、支所の代わりに「地域事務所」を設置する。(仮称)いがまち事務所(現伊賀支所庁舎)島ヶ原事務所・阿山事務所・大山田事務所青山事務所(建設中の複合施設内)とする計画。今後、市民への説明を行い、最終案を纏め、9月議会で議案提出の運びです。

柘植駅前花壇付近整備・駅構内清掃  
先般、6月26日(土)午前、柘植駅前花壇付近の整備と柘植駅構内の待合室の窓ガ



ラスや跨線橋のパネル・トイレの掃除を行いました。

当日は「笑みの会」(宮島会長)9名、及び「有志」の人達合わせて、計15名で作業に取り組みました。

花壇には夏の季節によく似合う「マリィゴルド」を植栽、植え込みの木々も風通しが良く為る様に整備した次第です。

伊賀市の「東の玄関口」としての「柘植駅」を地元の私達の手で守って行きたいと思えます。・・・と仰っておられます。

### 三重とこわか国体／採火イベント

7月14日、ふるさと会館・玄関前にて、『三重とこわか国体』開催に先立ち「炬火」(オリンピックの聖火に当たるもので選手達を見守る国体のシンボルと成るもの)の採火イベントが行われました。

伊賀市では上野・伊賀・島ヶ原・阿山・大山田・青山の6地域にて採火イベントが実施され、それらの火の一つにする事で「伊賀市の火」が誕生。県内14市の火を9月25日(土)の国体開会式で一つに集火し、「炬火台」に点火されます。

当日、いがまち3小学校(柘植・壬生野西柘植)の生徒会役員児童と教諭が数名づつ集合し皆んなで採火作業が行われました。

国民体育大会は、戦後の混乱期の中で、国民に希望と勇気を与える為、昭和21年

に大阪を中心とした京阪神地方に於いて第1回大会が開催されて以来、毎年、各都道府県持ち回りで開催されています。三重県では昭和50年に第30回国体を開催して以来46年振りに2回目と為る「第76回国民体育大会」が行われます。

とこわか国体と命名した意味は「活力に満ちた元気な三重」に繋がる大会を目指しており、三重の人・地域、そして来訪者の全てが活力に満ち、元気に成る事を願い、其の様なきっかけに繋がる大会と成る様にとの思いを込めて、「いつまでも若いさま」という意味の「とこわか」に託しています。





## 市民センターへの取材活動

柘植中学校及び、柘植小学校より、生徒達の訪問に依る取材活動依頼が3回有り、過日実施しました。先ず、6月17日・柘植中学校2年生に依る「つげまち取材活動」として、



1、つげまちの暮しを支えて来た校区の産業を知り、地元で仕事を営む人々と出会う事を通して、改めて地域の人の地元や仕事に対する思いに学ぶ。

2、聴き取り学習を通して働く事の意義や決意、職業についての理解を深め、自分の将来を思い描き、生き方や進路を見つめる。

以上、2つの趣旨にて来所されました。

6月29日、柘植小学校3年生全員と担任教諭2名が帯同・計19名にて来

所され、社会科の校外学習の一環として「私達の住む地域」に於ける「市民センター」の仕事内容の質問が数多(22項目)有りました。

最後に、柘植中学校1年生に依る「つげまち聴き取り学習」として、7月2日に来



合わせて考える。

柘植中学校1年生では「総合的な学習の時間」に、自分と職業・つげまち地域との関わりを深める学習を進めておられ、自分の成長を育み、暮しを支えて来た人との出会いを通し、思いを聞く事で、自分の町

所されました。狙いは、

① 地元を当てる。つげまちの文化や暮しを支えて来た人々との出会い、思いを知る事を通して、改めて地域の良さを確認する。

② 将来を思い描く中で、どのような地域社会が住み良いか、自分の生活と照らし

を見つめ、其の上にとって将来の自分を思い描いて欲しいと考えられて居ます。その様な観点から、色々な質問が生徒諸君から有り、折角の機会に尽き、其々の回答を通して社会科学習の場とした次第です。

## ☆☆ 編集後記 ☆☆☆

▼コロナ禍と云われて久し 早二年 テレビ観客で連日五輪・・・汚点続きのオリンピックは無観客での開催を余儀無くされる中、日本勢の大活躍に喝采を送るも、東京五輪の此の在り様は後手後手の行政対応が招いた結果で有り、W未接種若年層への感染急拡大で東京は再び危機的状況に陥った次第。

▼偏に「ワクチン接種」の遅れが主因で、現状唯一の対応策たるワクチンの確保供給体制の不備・遅延こそ其の元凶でしょう。

▼全国各地の夏祭りやイベントも昨年に引き続き2年連続中止を余儀無くされている所も多く「夏の風物詩」は今夏も見送られ寂しい限りです。

▼「在りとても頼むべきかは世の中を知らずする物は 朝顔の花」 中古三十六歌仙の一人「和泉式部」が平安中期に詠んだ歌今生きて居るからと言って明日も無事だとは限らない。其れを覚えてくれるのはあの朝顔の花です。朝は大輪の花を咲かせて居るのに夕べには萎んで仕舞う。そんな朝顔に人間の儂さや脆うさを重ね一瞬一瞬を大切に生きるべきだと詠んで居ます。(清水)